

2012 年台湾総統選挙と立法委員選挙の分析 —同日選挙効果と分割投票—

小笠原欣幸

はじめに

- 第1節 概念の整理と関連研究
 - 第2節 分割投票を計量する
 - 第3節 同日選挙効果はあったのか
 - 第4節 台中市の事例
 - 第5節 嘉義県の事例
 - 第6節 相乗効果の検証
- むすび

(要約)

2012年1月14日台湾で総統選挙と立法委員選挙の投票が同じ日に行われた。多くの選挙民は投票先を同じ政党に一致させたが、一部の選挙民は投票先を分割し異なる政党の候補者に票を投じた(分割投票)。他方、同日選挙となったことで投票率が上昇し選挙区の支持構造に影響を及ぼした(同日選挙効果)。本稿は、同日選挙効果と分割投票の実態を検討するため、総統選挙のデータを立法委員選挙の73選挙区に当てはめ2つの選挙を対照させた。

2008年選挙と比較して各選挙区における馬英九と蔡英文の得票率の変動幅のバラツキは小さく、国民党、民進党の立法委員候補のそれは大きかった。両党とも総統選挙と選挙区選挙の一致投票の度合いは大きい、2つの選挙の得票率変動の相関関係は小さい。マクロの観点から見ると、同日選挙による2つの選挙の相乗作用は確認できなかった。他方、同日選挙の恩恵を受けたと考えられる選挙区は民進党の方が国民党より多かった。

はじめに

2012年1月14日、台湾で総統選挙と立法委員選挙(以下、立委選挙と略記)の同日選挙が行われた。総統選挙は直接選挙が導入されて以来5回目、立委選挙は日本と類似の小選挙区比例代表並立制が導入されて2回目の選挙であった¹。総統選挙と立委選挙の投票が同日に実施されたのは初めてのことである。投票日当日、選挙民は立法委員の選挙区の1票と比例区の1票、そして総統選挙の1票の計3票を同時に行使した。多くの選挙民は3票の投票先を同じ政党に一致させたが、一部の選挙民は投票先を分割させ異なる政党の候補者に票を投じた。

前回の総統選挙と立委選挙は2008年に実施されたが、2つの選挙の間に2ヵ月の間隔があった。1月の立委選挙の投票率は58.72%、3月の総統選挙の投票率は76.33%で、選挙民の参加の水準が異なっていた。この数値を用いれば、2008年には立委選挙には関心がない(棄権する)が総統選挙には関心がある(投票に行く)選挙民は、全選挙民の約18%存在したとすることができる。2012年は同日選挙となったことで立委選挙の投票率は2008年と比べて16ポイント上昇し74.72%になった。この16%の選挙民のある程度の割合の人にとっては、関心の高い総統選挙の

投票行動が主で立法委員候補の選択はそれに付随したと考えられる。例えば、民主進歩党（以下、民進党）の総統候補者蔡英文に入れると決めた選挙民が関心の薄い選挙区選挙においても民進党候補者に入れる事例がそれにあたる。これは「一致投票 (straight-ticket voting)」と呼ばれる現象である。

他方、総統選挙は民進党候補、選挙区選挙は中国国民党（以下、国民党）候補というように1人の選挙民が異なる政党に票を入れる「分割投票 (split-ticket voting)」が各地で発生した。民進党の支持者で、総統選挙は蔡英文に入れるが選挙区は付き合いのある人から頼まれ国民党候補に入れるというのが分割投票の一例である。逆に、総統選挙では馬英九に入れ、選挙区では民進党の候補に票を投じる分割投票もある。分割投票は前回の2008年選挙でも見られたが、今回は初めての同日選挙であり分割投票は複雑なパターンが出現した。投票率の上昇が、一致投票を後押しした選挙区もあれば、異なる分割投票を促した選挙区もあった。このように同日選挙となったことによって発生した影響を本稿では「同日選挙効果」と呼ぶ。

選挙民は、選挙区、比例区、総統選挙の計3票を投じるので、立委選挙の比例区と選挙区との間でも分割投票は発生する。選挙制度の特徴により、比例区では小政党に入れて選挙区では二大政党の候補者に入れるのは自然な投票行動である。泛藍陣営²の支持者が、比例区では新党に票を投じ選挙区では国民党候補に入れるのは一種の分割投票であるが、選挙区では新党の候補者が立候補していないのでしかたなく国民党の候補に投票しているとも言える。泛緑陣営³の支持者が、比例区では台聯に1票を投じ選挙区では民進党候補に1票を投じるのも同じ関係である。こうした事例は、投票行動の多様性を示すもので詳細な検討に値するが、基本的に藍緑二大陣営が対立する台湾の政治構造に沿った投票行動と位置づけることが可能である。立委選挙の比例区と総統選挙との関係についても同じことが言える。台湾政治において意味のある分割投票は限定して議論した方がよい。本稿では、1票は泛緑陣営、別の1票は泛藍陣営というような藍緑がねじれた投票行動を分割投票と定義する。

本稿は、立法委員の選挙区選挙と総統選挙の投票行動に焦点を合わせ、同日選挙の影響、分割投票のメカニズムの検討を目的とする。2012年選挙を2008年選挙と比較し、マクロレベル（台湾全体）とミクロレベル（個別選挙区）の両方から観察することでこの課題にアプローチしていく。これにより2012年選挙の総合的理解に寄与できると考える。なお、立委選挙においては選挙区と比例区の他に全6議席の原住民選挙区がある。これは中選挙区制で実施され、異なる力関係で動くので本稿では分析の対象とすることはできない。

第1節 概念の整理と関連研究

本稿が論じる同日選挙効果に関係する概念として「一致投票」と「コートテール効果 (coattails effects)」がある。どちらもアメリカの選挙研究で豊富な蓄積がある。一致投票は、大統領、上院・下院議員、州知事、州議会議員など異なる選挙で同じ党の候補者に票を入れることを指す。コートテール効果は主として米大統領選挙と議会選挙との相互関係で論じられてきた⁴。米下院議員

は2年ごとに改選されるので、4年ごとの大統領選挙との関係で、単独選挙、同日選挙を繰り返す。同効果は次のように説明される。「大統領選挙と議会選挙が同時に行われるならば、有権者は自分が支持する大統領候補と友好な関係にある政党（議員）を同時に選ぶとする誘因がより強くなる。政党（議員）の側も、選挙戦において特定の大統領候補への支持を表明し、一体的な選挙活動を展開することで、大統領候補の人気にあやかろうとするだろう。これは、大統領が着ているコートの裾に議員がぶら下がって当選を果たすようなものとして、コートテール効果と呼ばれる。他方、議会選挙と大統領選挙が一定の期間をおいて行われる場合には、そうした誘因は働きにくくなる」⁵。

一致投票とコートテール効果は似た概念であるが微妙な差異がある。コートテール効果は主として勝利した大統領候補が同一政党の議会選挙にもたらすプラスの影響として議論されるが、一致投票の度合いは議席獲得の能力とは必ずしも関係しない。党勢が弱くとも一致投票は出現する。台湾では「親鴨がひなを連れていく」という表現がある。これは自力では当選が難しい議員候補（ひな）が有力な首長候補（親ガモ）の力を借りて票を伸ばす現象を指す。台湾では、地方自治体の首長選挙（例えば台北市長選挙）と議会選挙（例えば台北市議会選挙）が同時に実施されるのでこのような表現が生まれた。これはコートテール効果とほとんど同じであるが、台湾の用語は首長候補が落選した場合でも使われる。一致投票とコートテール効果の関係は、「総統選挙と選挙区選挙の一致投票の度合いは必ずしも同効果を示すものではないが、一致投票の度合いが大きい場合は同効果が出現した可能性を示唆するし、度合いが小さい場合は同効果が出現するのは難しい」と整理することができる⁶。

台湾では藍緑陣営の対立が明確なので、一致投票は同日選挙でなくとも発生する。2008年選挙は2ヵ月間隔があり投票率も異なるが、投票行動はほとんど同じであった。筆者は、2008年の立委選挙比例区の各党の得票を藍緑陣営に分類した結果は総統選挙の馬英九と謝長廷の得票率と一致することを示した⁷。また、松本は、「2008年選挙では選挙日程に多少のズレがあったものの、コートテール効果に似た効果が発揮され、そのことが国民党の大勝と馬英九の圧勝の一因となった」と指摘する⁸。2012年選挙については、馬英九のコートテール効果はあったとしても大幅に弱まった。一致投票の度合いは大きくなったかどうかを明らかにすることはできるが、それが同効果によるのか、政党帰属意識の強さによるのかを、筆者が使えるデータに依拠して明らかにすることは困難である。同効果の有無も重要であるが、2012年選挙に興味深い結果をもたらしたのは分割選挙であった。同日選挙による投票率の上昇によってある種類の分割投票は効果が減少し、別の種類の分割投票が促進された。こうして同日選挙は選挙区の支持構造に影響を及ぼし議席の数を左右したのである。本稿では、ミクロの選挙区情勢の議論の中で部分的に同効果の有無に言及する。

台湾における同日選挙研究は、地方自治体の首長と議員の同日選挙については一定の蓄積がある。しかし、総統と立法委員の同日選挙は2012年が初めてであり、評価を確立した先行研究というのはまだない。小笠原欣幸・佐藤幸人編『馬英九再選—2012年台湾総統選挙の結果とその影響—』（アジア経済研究所、2012年5月）は、2つの選挙の相互関係について部分的に論じて

はいるが掘り下げた検討はしていない。2013年に台湾の学者による研究成果がいくつか現れた。これらの研究はいずれも理論的・統計学的分析であり本稿のアプローチとは異なる。

最も包括的な研究は、陳陸輝編『2012年總統與立法委員選舉：變遷與延續』（台北、五南圖書出版、2013年5月）である。これは政治大学選挙研究センターの学者らが中心となり、2つの選挙の投票行動を多方面から分析した10篇の論文を収めた研究書である。これらの論文は「選挙と民主化の調査」と題する3年計画の大規模な選挙民調査のデータを使用しているという特徴を有する。これは政治大学選挙研究センターが中心となって、選挙民の属性、意識、政党支持傾向など詳細な質問票により面接調査を行い、1720の有効回答を解析したものである⁹。方法論としては、選挙全体を回顧した第1章、選挙プロセスを分析した第2章を除き、多項ロジットモデルによる解析を行っている。

同研究書の第4章が本稿と同じテーマで、2つの選挙の一致投票と分割投票を分析している。同章は、3種類の票がどのように投じられたのかを選挙民の属性データから分析するアプローチを採り、政党アイデンティティの強い選挙民は一致投票をする可能性が高く、無党派の選挙民は分割投票をする可能性が高いと結論づけた¹⁰。第4章の著者である黄紀と周應龍は、別の論文（Huang and Chou論文）で同日選挙による投票率の上昇について掘り下げた考察を行っている。同論文は、選挙民を6つのタイプに分類し、政治大学選挙研究センターの選挙民調査データを使用し、同日選挙によって増えたタイプの選挙民の属性を解析した。多項ロジットモデルによる解析の結論は、同日選挙によって増えた票は泛緑陣営に有利であったというものである¹¹。同論文は本稿とはまったく異なる方法論を採っているが、同日選挙が選挙区では民進党に有利であったという本稿の結論と合致する。

関連研究として他にHuang and Wang論文がある。同論文は政治大学選挙研究センターの選挙民調査データを使用し、選挙民と候補者の双方の属性からコートテール効果の有無を検討している。同論文はハイブリッドロジットモデルという方法を用い、解析の結果、総統選挙で馬に投じた選挙民は選挙区選挙も国民党候補に投じる傾向が確認できたとする。また、馬英九および蔡英文への選挙民の評価の程度と一致投票が発生する程度の関連については、馬の方がその確率が1.2倍高かったとする¹²。同論文は同日選挙の影響をコートテール効果の有無に限定して検討したもので、本稿の同日選挙効果の定義とは異なる。

第2節 分割投票を計量する

コートテール効果が発生させる主役は大統領候補である。一方、分割投票が発生させるプレーヤーは選挙区の候補者である。ある陣営の候補者が対立陣営の支持者から票を獲得し、得票数がその所属政党の基礎票を上回れば分割投票が発生したことになる。分割投票の有無を知るためには、①選挙区の立委候補と総統候補の得票率を対照させる、②選挙区の候補の得票率と比例区の政党得票率とを対照させる、の2つの方法がある。つまり、ある選挙区において、国民党または民進党の立法委員公認候補の得票と、その選挙区内の当該総統候補の得票との差、あるいはその選挙区内の比例

区の当該政党得票との差を量ることにより分割投票の規模を導き出すことができる。

総統選挙の得票率と比例区の政党得票率のどちらが分割投票を量る基準として適切かという点に関しては、選挙民の意識は比例区より総統選挙に重きが置かれているので、選挙区の候補と総統候補の得票率を対照させる方が分割投票の実態を解き明かすのに有利である。加えて、比例区の政党得票率については、国民党、民進党の二政党の得票率をそのまま用いるのか、あるいは、比例区のすべての小政党の得票率を泛藍陣営と泛緑陣営に分類した数値を両陣営の基礎票として用いるのか技術的な問題がある¹³。そこで、本稿は選挙区候補の得票率とその党の総統候補の得票率とを対照させることで分割投票を量る方法を採用。

選挙区レベルの分割投票の実態を把握するため、最初に、総統選挙の国民党、民進党の公認候補の得票率を立法委員の選挙区ごとに集計する作業を行う。次に、全 73 選挙区における国民党、民進党の公認候補の得票率をその党の総統候補の得票率と対比させる作業を行った¹⁴。それが付表 A（2008 年）と付表 B（2012 年）である。これにより、立法委員の全 73 選挙区において、総統候補と選挙区候補がどれほどの得票率をあげたのかを一覧することができる。これを見ると、ある選挙区の候補者はその党の総統候補の得票率を大幅に上回っているし、またある選挙区の候補者はその党の総統候補の得票率を大幅に下回っていることがわかる。両者の数値の差が大きい選挙区では、より大きな規模の分割投票が出現したことになる。民進党と国民党のそれぞれについて、立法委員候補の得票率と総統候補の得票率の差を選挙区ごとに計算した。これにより分割投票の規模が数値で把握できる。

分割投票の規模が比較的大きかった選挙区を抽出するため、付表 A、付表 B について、立法委員候補の得票率が総統候補の得票率を上回った幅が大きい上位 10 名のリストを国民党と民進党それぞれについて作成した。表 1 が 2008 年、表 2 は 2012 年である。なお、2010 年に台中、台南、高雄で県市合併があり当該地域の選挙区の名称が変更になったが、選挙区の線引きは同じである。本稿は合併後の選挙区名を使用する。

表 1 2008 年 立法委員選挙区候補の得票率が総統候補の得票率を上回った選挙区

	国民党の上位 10			民進党の上位 10		
	選挙区	候補者	差	選挙区	候補者	差
1	嘉義県第 1	翁重鈞	12.72	苗栗県第 1	杜文卿	6.56
2	雲林県第 1	張嘉郡	8.27	花蓮県	盧博基	6.36
3	高雄市第 2 (旧高雄県第 2)	林益世	7.85	台北県第 8	趙永清	6.30
4	高雄市第 1 (旧高雄県第 1)	鍾紹和	5.92	台中市第 1 (旧台中県第 1)	蔡其昌	5.15
5	台中市第 8 (旧台中県第 4)	徐中雄	5.61	桃園県第 2	郭榮宗	4.99
6	台南市第 1 (旧台南県第 1)	洪玉欽	3.98	台南市第 4 (旧台南市第 2)	賴清徳	4.76
7	屏東県第 2	王進士	3.72	桃園県第 3	彭添富	4.14
8	南投県第 1	呉敦義	3.15	台北県第 5	廖本煙	4.11
9	宜蘭県	林建榮	1.71	台中市第 7 (旧台中県第 3)	簡肇棟	4.10
10	台南市第 3 (旧台南市第 1)	王昱婷	1.39	台北県第 4	呉秉叡	3.71

(出所) 中央選挙委員会資料を参照し筆者が作成した。

(注) 網掛けは当選を示す。

表2 2012年 立法委員選挙区候補の得票率が総統候補の得票率を上回った選挙区

	国民党の上位10			民進党の上位10		
	選挙区	候補者	差	選挙区	候補者	差
1	嘉義県第1	翁重鈞	11.46	台東県	劉耀豪	11.10
2	雲林県第1	張嘉郡	9.13	屏東県第3	潘孟安	9.75
3	台中市第3	楊瓊瓊	7.83	台中市第1	蔡其昌	7.85
4	高雄市第2	林益世	7.31	澎湖県	楊曜	7.79
5	彰化県第3	鄭汝芬	6.50	新北市第2	林淑芬	7.29
6	嘉義県第2	陳以真	5.57	台中市第6	林佳龍	6.54
7	高雄市第1	鍾紹和	4.94	高雄市第4	林岱樺	6.22
8	台南市第5	李全教	4.79	新竹県	彭紹瑾	6.12
9	屏東県第2	王進士	4.66	台中市第4	張廖萬堅	5.63
10	南投県第1	馬文君	3.61	雲林県第2	劉建國	5.52

(出所) 表1と同じ。

(注) 網掛けは当選を示す。

分割投票を起こすには、候補者はその政党の基礎票を超える集票能力が必要であり、人間関係・組織関係・利益関係などにより選挙民に直接的な働きかけができるという条件、あるいはイメージ・評判により間接的に支持を獲得できるという条件を備えている必要がある。表1の2008年の事例を見ると、国民党の上位は知名度が高い地方派閥型候補者が占めている。国民党の地方派閥型候補は多くの場合、票固めの有効な手段を持っていると考えられる。民進党の上位はやはり知名度が高く地方でこまめに活動してきた人物が上位に来ている¹⁵。

2008年選挙の事例をさらに掘り下げる。高雄市第2選挙区(旧高雄県第2)の林益世の得票率は同選挙区内の馬英九の得票率より7.85ポイント高かった。林の得票率が馬と同じ程度であれば林は落選していた。林は謝長廷支持者の票の一部を獲得することによって当選した。台南市第4選挙区(旧台南市第2)の賴清徳の得票率は同選挙区の謝の得票率より4.76ポイント高かった。賴の得票率が謝と同程度であれば落選していた。賴は馬支持者の票の一部を獲得することによって当選した。林と賴は分割投票によって当選を勝ち得た。

国民党では分割投票を起こした上位10名のうち8名が当選したのに対し、民進党で当選したのは賴清徳1名だけである。これは、国民党の上位候補は相手陣営から票を取る力がある上に、2008年選挙が国民党に有利な環境であったことが原因である。民進党の上位候補は、個人票の上積みができたものの党の支持率が低迷している状況では当選には届かなかった。

本稿の分割投票計量法は、選挙区で独自に票固めをしている地方派閥型候補者の集票能力を数値化するという利点がある。だが、この方法ではカバーできない技術的問題がある。それは、選挙区で有力な無党籍候補が出馬した場合、公認候補の得票も影響を受け、分割投票がどのように作用したのか判別できなくなることである。例えば、2008年の国民党の上位10に彰化県の選挙区が出てこない。それは彰化県の4つの選挙区ではいずれも地方派閥型の人物が国民党公認候補として出馬しているが、それに対抗する形で無党籍候補が出馬し一定の票を得たので、本稿の方法では分割投票として算出されないからである。

数は少ないが国民党、民進党が公認候補を立てなかった選挙区もそのままでは算出できない。台中市第2選挙区（旧台中県第2）は国民党が無党籍の顔清標を優遇し公認候補を立てていない。2012年の場合、顔清標の得票率は馬の得票率を8.32ポイント上回ったので、顔清標を事実上の国民党候補と見なせば表2では3位にくる。

国民党の上位10名にも民進党の上位10名にも台北市の選挙区の候補は入っていない。台北市では泡沫候補が多いのでその影響を受けはするが、基本的に、選挙区選挙と総統選挙の一致投票の度合いが非常に高い。台北のような大都市では分割投票は起こしにくい。

第3節 同日選挙効果はあったのか

続いて表2の2012年選挙での国民党、民進党の上位10名のリストを見る。2012年は国民党の苦戦を反映し、上位10名での当選者は国民党が6名に減ったのに対し、民進党は8名が当選した。民進党は一般的に党勢が上昇傾向の中これらの候補者が個々の選挙区で個人票を上乗せしたパターンが見て取れる。民進党の上位10名の候補者はみな投票率が上昇して増えた浮動票を多く引きつけ蔡英文を上回る得票率をあげた。民進党の候補者は一般的に言って票を固める手段が相対的に乏しいので、これらの選挙区では同日選挙が民進党に有利に作用したように見える。

しかし、個々の選挙区の状況は複雑である。民進党の上位10名の候補者のうち当選した8名は、すべてが同日選挙であったから当選したと言い切れるわけではない。このうちの何名かは同日選挙でなくても当選していたであろう。潘孟安、林淑芬、林岱樺、劉建國の4名は、いずれも民進党優勢区でさらに個人票を伸ばした同じパターンである。彼らは同日選挙であったかどうかに関係なく当選できたであろう。一方、泛藍陣営優勢区である台東県選挙区の劉耀豪は、国民党陣営が2つに割れたことに加え、候補者本人が過去の選挙で善戦しながら敗れたことへの同情、および日常的で地道な活動が評価されて分割投票を引き起こした。劉は、候補者の顔ぶれが特殊であったのでこの組み合わせであれば同日選挙でなくても当選したと考えられるが、民進党が弱い台東県では浮動票が増えたことが重要であった。楊曜と林佳龍は、同日選挙であったから当選したと考えられる。楊と林の選挙区は馬英九の得票率が蔡英文の得票率を上回る泛藍陣営優勢区であるが、分割投票を起こすことによって逆転当選を果たした。投票率の上昇で増えた浮動票を引きつけたことが当選のカギであり、投票率が前回並みの低さであれば楊と林の当選は難しかったであろう¹⁶。民進党の当選者でこのパターンに属するのは、他に蔡其昌、何欣純（台中市第7）と魏明谷（彰化県第4）がいる。

それに対し、国民党の地方派閥型候補は、投票率が高くなったことによって彼らの強固な支持基盤に依拠した分割投票の効果が薄まった。これについてはある程度の検証が可能である。表1の2008年の候補者のうち国民党は6名、民進党は3名が2012年も同じ選挙区で出馬した。国民党の6名の選挙区はすべて蔡英文の得票率が50%を超える泛藍陣営優勢区である。そのため6名の国民党現職候補は苦戦し軒並み得票率が低下した。うち、翁重鈞（嘉義県第1）、張嘉郡（雲林県第1）、王進士（屏東県第2）の3名が民進党候補に差を詰められながらも分割投票を引き起

こし再選に成功した。林益世（高雄市第2）、鍾紹和（高雄市第1）、林建榮（宜蘭県）の3名は分割投票を引き起こしたが逆転され再選に失敗した。彼らの対立候補である民進党の邱志偉、邱議瑩、陳歐珀は、強固な支持基盤を持っていたわけではないが当選することができた。

ここで注目したいのは、これら3つの選挙区（高雄市第2、高雄市第1、宜蘭県）における蔡英文の得票率である。これら3選挙区では、蔡の得票率は民進党の立法委員候補3名の得票率を上回っている。これを見ると蔡の人气が選挙区候補を引っ張るコートテール効果が出現したように見える。しかし、蔡の得票率の伸び幅を2008年の謝長廷の得票率と比較してみると平均的な数値であり、蔡の勢いが特に強かったわけではない。邱志偉、邱議瑩、陳歐珀（特に前二者）が相手陣営の高い集票能力に苦しみながらも最終的に得票率を伸ばすことができたのは同日選挙によって投票率が上がったからである。現職の林益世、鍾紹和、林建榮は、強固な支持基盤を擁し民進党の支持者からも票を取ることができた。しかし、その分割投票の数は固定的であり、投票率が上がれば彼らがコントロールできない票が多くなる。彼ら3名は投票率が低ければ（例えば2008年並みの水準であれば）十分当選することができたであろう。

国民党の落選者でこのパターンに属するのは、他に李乾龍（新北市第3）と江義雄（嘉義市）がいる。李乾龍は旧台北県の三重市長を2期務めた。2005年の三重市長選挙で李乾龍は民進党の支持者からも票を得たことが市長選と同時に行われた県長選挙のデータからわかる¹⁷。嘉義市選出の江義雄は、地方派閥型候補ではないが現職として知名度があり、法律相談などの選挙民サービスが評価され一部民進党支持者の票を取り込む実力があつた。しかし、その効果は投票率の上昇によって相殺され、わずか437票差で敗れた¹⁸。

民進党の選挙区選挙と蔡英文の選挙との相互関係をさらに掘り下げたい。表1と表2で同じ選挙区から出馬した民進党の3候補について検討する。2008年は蔡其昌、郭榮宗、廖本煙の3候補とも当選できなかったが、2012年は蔡其昌が当選を果たし、郭榮宗と廖本煙は当選できなかった。蔡其昌は、2012年の得票率は2008年と比べて8.14ポイント上昇した。これは蔡其昌の過去4年間の選挙区経営が選挙民によって評価された結果と言える。この選挙区（台中市第1）での蔡英文の得票率は前回の謝長廷の得票率と比べて5.43ポイントの上昇であった。テールの方がコートより勢いがあつたと言える。

郭榮宗と廖本煙は、地元で知名度の高いベテラン政治家である。郭榮宗は2008年選挙では謝長廷の得票率よりも4.99ポイント上回った。2012年は蔡英文の得票率より5.18ポイントも上乗せしたが当選に届かなかった。廖本煙は、2008年は謝長廷の得票率を4.11ポイント上回ったが、2012年は蔡英文の得票率よりも1.74ポイント低かった。2人の個人票の伸びは大きく異なる。郭の得票率は2008年と比べて4.88ポイント成長した。しかし、廖の得票率は2008と比べて1.14ポイント減少した。この数値からは、郭の選挙区経営は選挙民の支持を受けたが、廖の方は評判が下がつたと見る事が可能である¹⁹。

ところが、郭の選挙区（桃園県第2）においても廖本煙の選挙区（新北市第5）においても蔡英文の得票率の伸び幅（謝長廷の得票率との比較）はそれぞれ4.69と4.71でほとんど同じである。選挙区の候補者のパフォーマンスの違いは蔡英文の得票率の伸びにまったく反映されていない

い。選挙区ごとの蔡英文の得票率と民進党立法委員候補の得票率との関係は、蔡英文の人気に支えられたコートテール効果があったことを否定するものではないが、民進党候補なら誰でも恩恵を受けたというものではない。コートテール効果が働く前提として個々の候補者が一定の評価を得ているかどうかが重要であり、選挙民は立法委員の候補の選好に自主性を持っていると仮定した方が説明しやすい。

国民党についても興味深い事例がある。表 2 で国民党の 6 位に入った陳以真是、馬英九選対本部で 2012 年選挙を取り仕切った金溥聰が擁立した都会型若手女性候補で、従来の地方派閥型と異なるタイプの候補である。陳以真是選挙民とハグをするという独自の選挙運動を展開し、民進党の地方派閥型候補者陳明文を相手に旋風を巻き起こした。陳以真の得票率は 44.8% で、2008 年の国民党候補涂文生の 42.12% を 2.68 ポイント上回り、また、馬英九の得票率を 5.57 ポイント上回った。この嘉義県第 2 選挙区は国民党候補が得票率を増やした数少ない選挙区である。ところが、この選挙区での馬英九の得票率は前回と比べて 7.06 ポイント低下している。馬の選挙情勢と陳以真の選挙情勢は別の動きをし、陳以真旋風は馬英九には何の恩恵ももたらさなかった。このように、同日選挙により総統選挙と立委選挙の相乗効果が発生したのかどうかは複雑なテーマである。

第 4 節 台中市の事例

選挙区の候補者がどの程度の同日選挙の恩恵を受けたかは、個々の事例を検討するアプローチを取らざるをえない。この課題を台中市の具体的事例を使ってさらに掘り下げる。台中市は地理的に台湾の中部に位置するのみならず、政治的に国民党の強い北部と民進党が強い南部の中間に位置する。本節では、台中市の特徴的な第 3、第 6、第 8 の 3 つの選挙区を取り上げる。

国民党候補が選挙前に苦戦を予想されながら当選した選挙区に台中市第 8 がある。国民党中央は党改革推進のイメージを出すため前新聞局長で若手の江啓臣を公認した。江啓臣は確かに地元出身であるが、地元での活動はほとんどなく地方政界との関係は薄かった。そのため、江の公認に反発する地元の市議員陳清龍と台中地方派閥黒派に属する前県議員車淑娟の 2 名が親国民党公認と無党籍で出馬した。こうして泛藍陣営の票が割れ、江の当選は極めて厳しいと見られていた。

表 3 2012 年 台中市総統選挙と立法委員選挙区選挙の得票状況

選挙区	種類	民進党		国民党		親国民党その他	
第 8	総統選挙	蔡英文	47.10%	馬英九	49.86%	宋楚瑜	3.04%
	立委選挙	郭俊銘	39.48%	江啓臣	44.77%	その他 3 名	15.75%
第 6	総統選挙	蔡英文	45.24%	馬英九	51.65%	宋楚瑜	3.11%
	立委選挙	林佳龍	51.78%	黃義交	45.49%	その他 5 名	2.74%
第 3	総統選挙	蔡英文	47.17%	馬英九	49.70%	宋楚瑜	3.13%
	立委選挙	童瑞陽	37.39%	楊瓊璿	57.53%	その他 1 名	5.09%

(出所) 表 1 と同じ。

結果は、江啓臣が44.77%の票を得て、39.48%を得た民進党の郭俊銘、9.58%の陳清龍、5.67%の車淑娟を押さえて当選した。この台中市第8では、蔡英文の得票率の伸びは5.50ポイントで台中市の8選挙区の中で最も伸びが大きかった。逆に馬英九は8.54ポイントの減少で台中市の8選挙区の中で最大の落ち込みであった。つまり、総統選挙情勢は蔡英文には追い風、馬英九には逆風が吹いていた。ところが、民進党公認候補の郭俊銘の得票率は39.48%で蔡英文の得票率47.10%にくらべて7.62ポイントも少ない。郭は蔡英文の票を十分まとめることができなかった。

ここで注目すべきことは、一定の支持基盤を持つ陳清龍と車淑娟が伸び悩んだことである。これは、総統選挙の終盤戦で安定を志向する泛藍系選挙民が宋楚瑜を見棄てて馬英九に票を集中させる動きが選挙区の投票行動にも現れ、国民党公認の江啓臣候補に票が集中する動きにつながったことが原因と考えられる。投票結果から見て、陳と車は投票率の上昇によって増えた浮動票をほとんど取り込めなかったと考えられる。他に、民進党の郭に対しては、前は台中市第3で出馬したが今回交替でこの選挙区から出馬したことに批判があった。ただし、これは同日選挙であってもなくても生じていた批判である。台中市第8において同日選効果と言えるのは、親民党や無党籍に流れる可能性のあった泛藍系の票が、最後に国民党公認候補の江啓臣に回流したことであろう。この選挙区で馬英九によるコートテール効果が働いたか否かについて結論を出すには材料が不足しているが、少なくとも同日選挙によって国民党に一致投票の力が加わり、他の泛藍系候補の票の積み増しが難しくなったと見ることは可能である。これは同日選挙が国民党に有利に働いた事例である。

同じように国民党系の無党籍候補に票が流れ苦戦が予想されていたのに国民党公認候補が逃げ切った選挙区として、江惠貞が当選した新北市第7、李慶華が当選した新北市第12、王惠美が当選した彰化県第1を挙げることができる。これら3つの選挙区においても、終盤戦で無党籍候補の票が予想より伸びず、国民党公認候補に票が集中した。同日選挙が国民党に一致投票の求心力をもたらしたのである。同日選挙でなければ、一定の支持基盤を擁するこれらの無党籍候補の得票の比重が高まり民進党候補に漁夫の利をもたらした可能性が高い。江惠貞、李慶華、王惠美は同日選挙効果の恩恵を受けて当選したと見ることができる²⁰。

民進党の林佳龍が当選した台中市第6選挙区の場合は、蔡英文の得票率の伸びが4.06ポイントであったのに対し、林の得票率は2008年の民進党候補の得票率より8.57ポイント伸びた。この選挙区の総統選挙の結果は、蔡英文45.24%、馬英九51.65%、宋楚瑜3.11%で国民党優勢区である。しかし、立委選挙では林佳龍が51.78%、黄義交が45.49%で、林が逆転した。国民党現職の黄義交は、前回2008年は54.91%の得票率で圧勝したが、2012年は林に押されて得票率を9.42ポイントも下げた。これらの数値から、2008年の投票状況との比較で、投票率が上がって増えた浮動票の多くを林佳龍が獲得したと考えられる。選挙民の約6.5%が、総統は国民党の馬英九、選挙区は民進党の林佳龍に入れる分割投票を行ったと見る事ができる。同日選挙は民進党の林佳龍に有利に働いたのである。

他方、同じ台中市の隣の選挙区である台中市第3選挙区は逆のパターンが出現した。この選挙区の総統選挙の結果は、蔡英文47.17%、馬英九49.70%、宋楚瑜3.13%で、蔡と馬はかなり接近し

ていた。ところが、立委選挙の結果は民進党の童瑞陽 37.39%、国民党の楊瓊瓔 57.53%、無党籍候補 5.09%であった。蔡に投票した人のかなりの割合が選挙区では民進党の童瑞陽に入れず、国民党の楊瓊瓔に入れる分割投票が発生した。蔡英文のコートテール効果は発生せず童瑞陽は同日選挙の恩恵をまったく受けなかった。楊瓊瓔は当選 4 回、日常的に選挙区経営に力を入れ、支持基盤は前回より強くなっていた。それが国民党逆風の中の選挙でも前回の得票率をほとんど下げなかったことにつながった。楊瓊瓔は同日選挙であってもなくても圧勝したであろう。一方、馬英九の得票率は前回から 8.44 ポイント低下した。全国平均値よりも大きな減少幅である。この事例は、選挙区で強力な立法委員候補を立てても馬の得票率には何の助けにもならなかったことを示す。この選挙区においては、同日選挙であったかどうかは選挙結果に影響していない。

こうしてみると、同じ台中市の隣接選挙区では、民進党に有利な分割投票と国民党に有利な分割投票が発生したことがわかる。林佳龍の場合は、2005 年台中市長選挙に出馬し落選してから地道に選挙区で活動を続けてきたことが国民党支持者の一部にも評価された。楊瓊瓔は、日頃の選挙区での活動が民進党支持者の一部にも認められたと言える。泛藍陣営と泛緑陣営の帰属意識が強い選挙民は同日選挙であるかどうかにかかわらず決まった投票行動を取り、中間派の選挙民は同日選挙のもう 1 つの選挙に惑わされることなく候補者をよく判断して票を投じたと考えるのが適切であろう。

第 5 節 嘉義県の事例

前節では台中市の 3 選挙区を事例に総統選挙と選挙区選挙の 2 票の行方を検討した。筆者の定義する分割投票が最も大きな規模で発生したのは 2008 年選挙においても 2012 年選挙においても嘉義県第 1 選挙区である。本節では、同選挙区の事例を使い、立委選挙の比例区の投票行動も加えてミクロレベルから 3 票の相互関連と分割投票のメカニズムを解明したい。

この選挙区選出の立法委員翁重鈞は、元来嘉義県の国民党系地方派閥黄派の主要人物として活躍し、陳明文が率いる林派と対抗していた。陳水扁時代に陳明文が民進党に入党し、林派は民進党県党部と合体、陳明文が県長に当選し民進党・林派勢力が県政府を掌握した。黄派は派閥としての結集力が弱まり、嘉義県の地方政治は地方派閥対抗型から政党対抗型政治へと転換した。しかし、翁は県沿海地域を中心に強力な後援会組織を有している。

2008 年立委選挙で翁重鈞は民進党の蔡啓芳との対決に圧勝した。得票数は 75489 対 55860 で約 2 万票の差をつけた。2012 年選挙では民進党は蔡啓芳の息子蔡易餘を立てた。翁の票が伸びなかったのに対し蔡易餘は 16726 票も伸ばし激しく追い上げたが、翁が再選を果たした。得票数は 73481 対 72586、得票差はわずか 895 票差の大接線であった（図 1）。

表 4 は 2008 年の嘉義県第 1 選挙区の 3 つの投票結果である。比例区の政党得票率を見ると国民党の政党得票率は 43.72%にすぎないのに、選挙区の国民党公認翁重鈞候補は 57.47%もの得票率をあげている。差は 13.75 ポイントである。票数で言うと、比例区の国民党の得票数は 55097、翁重鈞の得票数は 75489 票、差は 20392 票となる。

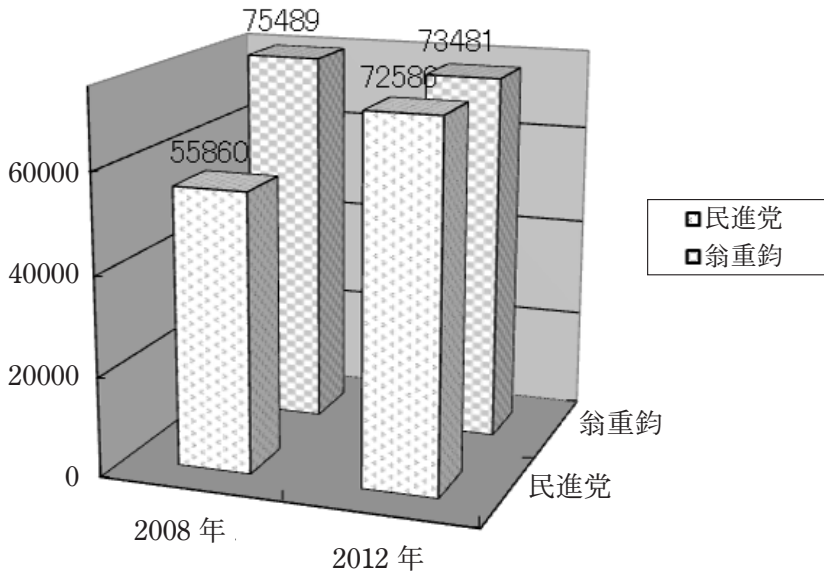


図1 嘉義県第1選挙区翁重鈞候補の得票数の推移

(出所) 表1と同じ。

翁候補の票はどこからきたのか計算してみたい。嘉義県第1について比例区の12政党の政党得票数(得票率)を算出し泛藍と泛緑に分類する。新党(0.9%)、台湾農民党(1.01%)、無党團結聯盟(0.67%)、紅党(0.64%)、客家党(0.28%)、公民党(1.27%)の6党は泛藍系なので、選挙区で国民党公認の翁候補に投票したと見なす。泛藍系小政党の得票数の合計6025票を国民党の政党得票数55097票に足すと61122票となる。これが翁候補の基礎票と考えることができるが、翁の得票数はこれを14367票上回った。この票差は、比例区で民進黨、台聯(4.30%)、第三社会党(0.46%)、綠党(0.45%)、制憲聯盟(0.95%)に投票した泛緑諸政党の支持者が選挙区で翁に投じたものと考えられる。この14367票が分割投票の数である(図2)。整理すると、翁の得票のうち国民党支持者から来た割合が73.0%、泛藍系小政党の支持者からが8.0%、泛緑の支持者からが19.0%となる。翁重鈞は大規模な分割投票を引き起こすことによって泛緑優勢の選挙区で当選を果たしたのである。

表4 2008年 嘉義県第1選挙区の得票率

	民進黨	国民党	無党籍 その他
選挙区	42.53%	57.47%	0.00%
比例	45.34%	43.72%	10.94%
總統選挙	55.25%	44.75%	0.00%

(出所) 表1と同じ。

表5 2012年 嘉義県第1選挙区の得票率

	民進黨	国民党	無党籍 その他
選挙区	49.69%	50.31%	0.00%
比例	43.65%	34.89%	21.46%
總統選挙	58.76%	38.85%	2.40%

(出所) 表1と同じ。

次に、表5の2012年の選挙結果を見る。国民党の苦戦を反映し、嘉義県第1においても比例区の国民党の政党得票率は43.72%から34.89%へと大きく低下した。しかし、翁は50.31%の得票率を得て、国民党の政党得票率を15.42ポイントも上回った。2012年の翁の票の出どころを調べる。2012年は親民党の扱いが難しい。親民党の支持者が選挙区で翁に自動的に票を入れたわけではないが、親民党も泛藍として計算する。泛藍陣営に属すると見なされる新党（0.45%）、親民党（4.06%）、台湾国民会議（1.34%）、健保免費連線（1.13%）、中華民國台湾基本法連線（0.19%）、台湾主義党（0.35%）の6政党の得票数は10889票である²¹。これと国民党の得票数50536票を合計した61425票が泛藍系の政党得票数である。翁の得票はこれを12056票上回った。これが翁の分割投票の数となる（図2）。

2012年の翁重鈞の得票源を整理すると、国民党支持者から来た割合が68.8%、泛藍系小政党の支持者から14.8%、泛緑の支持者から16.4%となる。ここでは親民党の政党票をすべて泛藍に組み込んだが、実際にはそうではないので、泛藍系小政党の支持者からの比率は14.8%より小さく、泛緑の支持者からの比率は16.4%より大きいはずである。2008年と2012年の選挙は外部環境が大きく異なる。それは同日選挙で立委選挙の投票率が大幅に上昇したことである。投票率は2008年の66.36%から2012年の73.81%へと7.45ポイント上昇し、有効票数は14718票増えた。一方、翁の得票数における分割投票の数は2008年の14367票から2012年の12056票へ減少したが、依然として高い水準にある。国民党が苦戦する中、翁候補は泛緑系の支持者から票を集める力は維持したのである。

次に総統選挙との関連を調べてみたい。2008年は立委選挙の2ヵ月後に総統選挙が実施された。嘉義県第1選挙区での馬英九の得票数は65073票、得票率は44.75%であった。翁重鈞の得票数は75489、得票率は57.47%であるから、翁は馬の得票と比較して得票数で10416票、得票率では12.72ポイント上回った（表4）。嘉義県第1における2つの選挙の投票率は立委選挙が66.36%、総統選挙が72.08%である。驚くべきことに、投票率の低い選挙の翁の得票数は、投票率の高い選挙の馬の得票数を1万票も上回った。

2012年は、立委選挙の投票率が73.81%、総統選挙の投票率は73.70%であった。同日選挙であるから投票率はほとんど同じである。馬の得票数は57817票、得票率は38.85%であった。翁の得票数は73481、得票率は50.31%であった。翁は馬の得票と比較して得票数で15664票、得

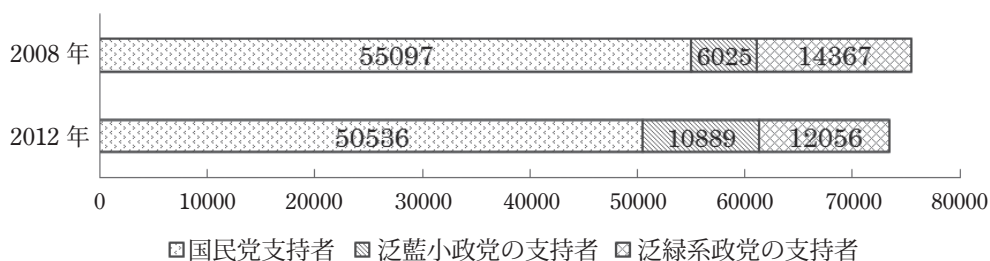


図2 翁重鈞候補の得票源

（出所）表1と同じ。

票率では 11.46 ポイント上回った。翁候補の集票能力は突出している。表 5 のとおり、嘉義県第 1 における蔡英文と馬英九の対決は蔡 58.76%、馬 38.85%で、蔡の圧勝であった。翁が国民党の基礎票だけに依拠していたなら当選にはとうてい届かなかった。

では、同日選挙はどのような影響を与えたのであろうか。嘉義県は 2012 年総統選挙で投票率が 2008 年と比べて減少しなかった (0.16 ポイント上昇) 唯一の県市である。その嘉義県の中でも第 1 選挙区と第 2 選挙区で様子が異なる。第 1 選挙区の総統選挙の投票率は 2008 年の 72.08% から 73.70%へと 1.63 ポイント上昇した。一方、第 2 選挙区では総統選挙の投票率が 2008 年の 72.53%から 2012 年の 71.38%へと 1.15 ポイント下落した。第 1 選挙区で蔡英文は謝長廷に比べて 3.51 ポイント得票率を伸ばしたが、これは台湾全体の蔡英文の伸びである 4.08 ポイントより少ない。つまり、嘉義県第 1 では投票率が上昇したが蔡英文の票の伸びはそれほどでなかった²²。蔡英文の人气が爆発的に上昇しそれが蔡易餘の票を引き上げたとは言いがたい。逆に、蔡易餘が翁重鈞と接戦を演じたことにより蔡英文の得票が伸びたとも言えない。

しかし、結論としては同日選挙の影響は非常に大きかった。立委選挙と総統選挙の相乗作用は確認できないが、単純に投票率の上昇が翁候補に極めて不利に作用したのである。投票率が上がることで、翁の後援会の組織票以外の票が多数投じられた。地方派閥型の翁候補は中間派選挙民にはとりたてて魅力がなかったし、票を固める手段も使えなかった。新たに投票した人のかなりの人が蔡易餘に投票したと考えられる。同日選挙でなければ後援会の固い票を有する翁候補は楽勝していたであろう。嘉義県第 1 選挙区は台湾全体で見ると極端な事例であるが、同日選挙効果と分割投票の最も激しいせめぎ合いがあり、両者の性質を検討するまたとない事例なのである。

第 6 節 相乗効果の検証

ここまで個々の選挙区のマクロの状況に注意を払いながら同日選挙の影響を議論してきた。ここまでの議論では、同日選挙効果というのは投票率の上昇が個々の選挙区にもたらした影響の集合である。次に、マクロの観点から同日選挙によって 2 つの選挙の相乗効果というものがあったのかどうかを検証してみたい。付表 A と付表 B のデータを使って同日選挙による相乗効果が出現したのかどうかを検討してみる。

最初に、73 の選挙区の立法委員候補の得票率と総統候補の得票率との相関関係を調べてみる。正の相関の場合 0 から 1 の間の数値で表される相関係数を見ることによって、一致投票の度合いは大きかったのかどうか、どちらの党が大きかったか、そして 2008 年と 2012 年の数値を比較することでどちらの選挙が一致投票の度合いが大きかったかも判別することができる。相関係数を算出するにあたり、台湾本島と投票傾向がまったく異なり統計処理の攪乱要因となる金門県・連江県を除外する。

2008 年の選挙区民进党候補の得票率と謝長廷の得票率の相関係数は 0.781、選挙区国民党候補の得票率と馬英九の得票率の相関係数は 0.808 であった。両者とも高い数値で大きな相関関係が認められる (なお、金門県と連江県を加えた数値は、民进党 0.866、国民党 0.470 であった)。台

湾の選挙民の投票行動からするとあたりまえと思えることだが、この数値によって、2008 年選挙で馬英九に票を入れた選挙民は選挙区でも国民党候補に入れた比率は非常に高いということが確認できる。2008 年の選挙は同日選挙ではなく 2 か月の間隔があったが、マクロレベルでは両党ともに投票先を一致させる支持者が高い割合で存在したということは間違いない。

2012 年の選挙区民進党候補の得票率と蔡英文の得票率の相関係数は 0.826 で、かなり大きな相関関係がみられる。一方、選挙区国民党候補の得票率と馬英九の得票率の相関係数は 0.610 で、相関関係はあることはあるが 2008 年の数値よりいくぶん低下しているし、民進党に比べていくぶん低い（金門県と連江県を加えた数値は、国民党は 0.383 となる。民進党は 2012 年選挙で金門県と連江県に候補を立てていないので計算方法は変わらず相関係数の数値は 0.826 のままである）。同日選挙となった 2012 年選挙においては、国民党の一致投票の割合は民進党より小さく、また、2008 年と比べても小さくなった。民進党は 2008 年も 2012 年も一致投票の割合は比較的大きかった。

同日選挙により一致投票の割合が強まったのであれば、マクロレベルで見た場合、相乗効果が発生したと考えることが可能である。国民党は同日選挙ではない 2008 年選挙において一致投票の割合はかなり強かったが、同日選挙であった 2012 年の方が一致投票の割合が下がっている。数値の比較は慎重であるべきだが、国民党に関しては同日選挙による相乗効果が発生したとは言いがたいであろう。民進党の数値は 2012 年の方が若干大きい、相関係数の性質を考えるとこの差を過度に重視すべきではない。これらの数値は、馬英九のコートテール効果は、2012 年は発生したとしても 2008 年よりは小さくなった、そして謝長廷と蔡英文のコートテール効果は一定程度発生したと推測することを可能にするが、断定するには根拠が十分ではないので 1 つの参考情報としたい。

同日選挙の結果として一致投票の割合が高くなったかどうかの検討は相乗効果の静的把握法と言える。次に、得票率の変動幅に焦点を合わせ同日選挙による相乗効果を動的にとらえてみたい。これは同日選挙によって生じた変化に焦点を合わせる筆者独自の方法である。同日選挙による相乗効果が蔡英文・民進党に現れたと仮定すれば、選挙区での蔡英文の得票率が前回の謝長廷よりも伸びれば伸びるほど（蔡はすべての選挙区で謝より票を伸ばした）、民進党候補の得票率も伸びている状態を各地で観察することができるであろう。一方、同日選挙効果が馬英九・国民党に現れたと仮定すれば、前回と比較して馬英九の得票率の落ち込みはできるだけ小さく（馬が前回より票を伸ばした選挙区はない）、また、選挙区の国民党候補の得票率の減少幅もできるだけ小さいという状態を観察できるであろう。それぞれの現象について相関関係が確認できれば同日選挙による相乗効果があったと言えるであろう。

そこで、73 選挙区について、2008 年との比較で蔡英文の得票率の変動幅と民進党の選挙区候補の得票率の変動幅を算出し付表 C を作成した。各選挙区における蔡英文の得票率の伸び幅と民進党候補の伸び幅を変数として相関係数を算出したところ 0.14 という結果が出た。数値の上では選挙区における蔡英文の得票率の伸び幅と民進党候補の伸び幅の相関関係はないとは言えないが、非常に弱い。つまり、蔡英文が票を伸ばした分、選挙区民進党候補も票を伸ばす（あるい

は蔡英文の票の伸びが小さいところでは選挙区民進党候補の票の伸びも小さい) という現象はごくわずかししか発生しなかったということになる。

付表Cを詳細に見ていけば、蔡英文の得票率の変動幅は比較的安定していることがわかる。それに対し、選挙区民進党候補の得票率の変動幅はバラツキが大きい。バラツキを数値で把握するには標準偏差が使える。蔡英文の得票率の変動幅の標準偏差は0.77であるのに対し、民進党の立法委員候補の得票率の変動幅の標準偏差は6.46であった。前者の数値については変動幅のバラツキは非常に小さい、後者の数値については、バラツキは非常に大きいとすることができる。両者の動きはまったく異なっている。

馬英九の得票率の変動幅と国民党の選挙区候補の得票率の変動幅についても一覧表を作成した(付表D)。馬英九の得票率の減少幅と国民党候補の得票率の減少幅の相関係数は0.13であった。選挙区での国民党選挙区候補の票の減り具合と馬英九の票の減り具合はほとんど対応していない。馬英九の選挙区ごとの得票率の変動幅は比較的安定しているが、国民党選挙区候補の得票率の変動幅はやはりバラバラである。前者の標準偏差は0.95、後者の標準偏差は6.78でやはり大きく異なっている。

まとめると、選挙区ごとの蔡英文の得票率の変動幅(謝長廷の得票率との比較で)と馬英九の得票率の変動幅(前回の馬英九の得票率との比較で)のバラツキは非常に小さい。選挙区ごとの両党の立法委員候補者の票の動きは総統選挙の票の動きとバラバラの動き方をしている。この原因については、選挙区選挙では候補者の質や知名度、選挙区経営などのローカルな要因が比較的大きく影響し、総統選挙ではローカルな要因の影響は比較的小さく全国的な選挙議題の要因により全国的に票が動いたからである、と解釈することができる。個別には相乗効果が発生したと考えられる選挙区があるが、全体としてみれば立委選挙と総統選挙との動的連動性は薄いという結論になる。付表A、B、C、Dを検討した結論としては、マクロ的には一致投票の度合いは高いが同日選挙によって総統選挙と立委選挙が相互に影響を及ぼしあう相乗効果は特に発生しなかったということになる。

むすび

2012年選挙が同日選挙であり、かつ、馬が再選され国民党が過半数を維持したことから同日選挙は国民党に有利に作用したという見解が見られる。一部の日本メディアは「党の組織力がものをいうため我々に有利だった」という国民党の選挙担当者の話を引用し「同日選、国民党有利に」という報道をしたが²³、本稿の検討ではそうした現象は確認できなかった。

2008年と比較した馬英九と蔡英文の得票率の変動はどちらもバラツキの幅は非常に小さく、それに対して選挙区候補の得票率の変動は両党ともバラツキの幅が非常に大きい。マクロの観点からは、総統選挙の選挙情勢は、選挙区の立法委員候補の選挙情勢の影響はほとんど受けなかったと言える。選挙区選挙は、同日選挙に関係なく候補者の資質などのローカル要因で勝敗が決まる場合が多かったので得票率変動のバラツキが大きかった。どちらの党も同日選挙によって総統

選挙と選挙区選挙の相乗効果が発生したと言うことは難しい。しかし、同日選挙効果がまったくなかったということもできない。それぞれの選挙区では、同日選挙効果と分割投票のせめぎ合いがあった。同日選挙の効果というのは、立委選挙の投票率が上昇し選挙区の特定の候補にプラス・マイナスの影響を及ぼしたことである。

付表のデータの検討から次のことが明らかになった。泛緑陣営優勢区で出馬した国民党の林益世（高雄市第2）、鍾紹和（高雄市第1）、林建榮（宜蘭県）、李乾龍（新北市第3）、江義雄（嘉義市）の5名は分割投票を起こして当選する力を持っていたが、投票率が上がったため及ばなかった。彼らは同日選挙の「犠牲」になったと言える。逆に当該選挙区の民進党候補邱志偉、邱議瑩、陳歐珀、高志鵬、李俊俋の5名は支持者の一部を相手陣営に切り崩されたが、投票率上昇がもたらした浮動票を多く獲得することによって当選を果たした。彼らは同日選挙の恩恵を受けた。

泛藍陣営優勢区であるにもかかわらず投票率が上がって増えた浮動票を多く取り込んで当選した民進党候補も分類することができる。劉權豪（台東県）、蔡其昌（台中市第1）、楊曜（澎湖県）、林佳龍（台中市第6）、何欣純（台中市第7）、魏明谷（彰化県第4）がそうである。これらの候補者は、総統選挙は馬英九、選挙区は民進党候補という分割投票を引き起こし当選した。蔡英文との相乗効果があったわけではないが、少なくとも投票率が上昇したことにより有利になったという意味で同日選挙の恩恵を受けた。これらを合計すると、民進党は11選挙区で同日選挙の恩恵により当選を果たした。

それに対し、国民党の立法委員候補で同日選挙の恩恵を受けたのは江啓臣（台中市第8）、江惠貞（新北市第7）、李慶華（新北市第12）、王惠美（彰化県第1）の4名に限られる。これら4選挙区では泛藍陣営に属し固定票を持つ地方人士が無党籍で出馬したため国民党の票が割れる可能性があった。投票率が前回並みの低さであれば民進党候補が漁夫の利を得て当選していたと考えられる。しかし同日選挙であったがために国民党に一致投票の求心力が働き最後に国民党公認候補が抜け出すことができた。

このように73選挙区を調べた結論としては、同日選挙によって恩恵を受けた選挙区は国民党より民進党の方が多かった。国民党は同日選挙によって選挙議題の設定、政策論議を優位に進めることができたが、犠牲も大きかったのである。同日選挙効果は選挙区レベルのことではなく、選挙のタイミング、選挙議題の設定、政策論争など中央レベルの効果として論じるべきである。

本稿は73選挙区の選挙区事情の観察と選挙区ごとの選挙データに基づいて同日選挙効果と分割投票を検討した。しかし、立委選挙と総統選挙の相互関係は本稿でも十分に詰め切れたわけではない。同日選挙効果と分割投票のせめぎあいは次の2016年選挙でも焦点となるであろう。今後の選挙でこの問題を突き詰める方法としては、各選挙区の主要候補の支持率を定期的に計測し、それが選挙戦の進展とともにどう変化したかを総統選挙の動向と対比させるアプローチが考えられる。今後の選挙ではこのような視点からのフィールド調査が台湾の研究者によってなされるかもしれない。

注

- 1 台湾で小選挙区比例代表並立制が導入された経緯については、松本充豊「小選挙区比例代表並立制による議会選挙と大統領選挙——台湾・韓国——」、岩崎正洋編著『選挙と民主主義』吉田書店、2013年、242-245頁を参照。
- 2 国民党および国民党から分裂した新党、親民党という小政党を合わせた勢力を指す。中華民国意識が比較的強い。この呼び名は国民党のシンボルカラーが藍色であることに由来する。
- 3 民進党および台湾団結聯盟（略称は台聯）という小政党を合わせた勢力を指す。台湾意識が比較的強い。この呼び名は民進党のシンボルカラーが緑色であることに由来する。
- 4 Ferejohn, John A. and Randall L. Calvert, "Presidential Coattails in Historical Perspective," *American Journal of Political Science*, vol. 28, no. 1, 1984, pp.127-146.
- 5 建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』有斐閣、2008年、121-122頁。
- 6 Huang and Wang 論文は、コートテール効果は選挙民が一致投票をした場合にのみ出現すると定義している (Huang, Chi and Wang, T.Y., "Presidential Coattails in Taiwan: An Analysis of Voter-and Candidate-Specific Data," *Electoral Studies* [Accepted Manuscript, accepted date: 12 September 2013], <http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0261379413001467>, 2013年10月13日アクセス, p.9)。
- 7 小笠原欣幸「2008年台湾総統選挙分析——政党の路線と中間派選挙民の投票行動——」『日本台湾学会報』第11号、2009年、145-146頁。
- 8 松本充豊「中国国民党と馬英九の戦略」、小笠原欣幸・佐藤幸人編『馬英九再選——2012年台湾総統選挙の結果とその影響——』アジア経済研究所、2012年、66頁。
- 9 「2009年至2012年『選挙と民主化調査』三年期研究計画：民國一百零一年總統與立法委員選舉面訪案」2012年 (<http://www.tedsnet.org/>, 2013年10月13日アクセス)。この調査の質問・回答の素データはホームページで公開されている。しかし、素データだけでクロス集計はできない。
- 10 黄紀・周應龍「2012年總統與立委併選の一致與分裂投票」、陳陸輝編、前掲書、85-124頁。
- 11 Huang, Chi and Chou, Ying-lung, "Disentangling the Turnout Effect: The Case of Taiwan's 2012 Concurrent Elections," August 25, 2013, Social Science Research Network SSRN (<http://ssrn.com/abstract=2315745>, 2013年10月13日アクセス)。
- 12 Huang and Wang, 前掲論文。
- 13 本稿第5節で、嘉義県第1選挙区を事例に比例区のすべての小政党の得票率を泛藍陣営と泛緑陣営に分類する方法を試している。一部の小政党は属性が不明のまま処理をせざるをえない。ただし、これら小政党の得票率は微小なので試算に大きな影響は与えない。
- 14 親民党については、①立委選挙で候補を立てたのは10選挙区で事例が少なすぎる点、②10人の候補者の得票率も非常に低くほとんどの選挙区で当選者の決定に影響していないことの2点から、総統選挙の宋楚瑜候補の得票との関係を知るには不適切と判断するので本稿では取り上げない。
- 15 分割投票の判断は選挙結果の数値だけでなく、選挙区ごとの特徴を把握し、各党の公認候補がどのように決まりどのような選挙戦が行われたのかを追跡する必要がある。全73選挙区の情報については、小笠原欣幸「2012年台湾立法委員選挙 選挙区情勢」(小笠原ホームページ、<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/analysis/Lelection2012constituencies.pdf>, 2013年10月13日アクセス)がある。本稿の選挙区の議論はこれを参照している。本稿は字数の制限があり全選挙区情報を掲載することはできない。
- 16 林佳龍の事例は第4節で分析する。澎湖県選挙区は、楊曜と林炳坤（無党籍）の一騎打ちであった。林炳坤は、国民党が公認候補を立てなかったので泛藍系の統一候補として再選を目指した。澎湖県は泛藍陣営優勢区であるから一致投票が出現していれば林が当選できた選挙区である。澎湖県は離島で交通の便が悪いので同日選挙による投票率の上昇は限定的である。それでも2008年の54.90%に対し2012年の投票率は59.22%になり4.32ポイント上昇した。楊曜が、増えた票のうちかなりの割合を取り、これによって固い支持基盤を擁する林に逆転勝ちしたのである。
- 17 2005年12月3日、台北県長選挙と県下の市長選挙が同時に行われた。台北県長選挙に出馬した候補の三重市での得票率は、国民党の周錫璋が45.69%、民進党の羅文嘉が53.43%であった。一方、三重市長選挙に出馬した国民党の李乾龍の得票率は52.16%、民進党の李余典の得票率は47.84%であった。李乾龍の得票率は県長に当選した周錫璋の得票率を6.47ポイント上回った。李乾龍の分割投票を引き起こす能力は非常に高いことがわかる。ちなみに、2005年台北県長選挙の三重市での投票率は67.25%、三重市長選挙の投票率は

- 67.34%であった。
- 18 嘉義市の民進党陣営は内部争いが顕著で、候補が一本化されたとはいえ泛緑陣営の票をまとめられるか疑問視されていた。投票率が上がって蔡英文に票を入れた人が選挙区で李俊傑に入れる一致投票が増えたことが民進党の当選につながった。蔡英文のコートテール効果が出たとも考えられる。いずれにせよ、同日選挙であったから民進党が議席を獲得できた選挙区と見ることが可能である。
- 19 郭榮宗は2010年の補欠選挙で当選したので現職として選挙区経営を行うことができた。一方、廖本煙は地元樹林市の市長を経て立法委員を2期務めたが、2008年の落選後、選挙区経営は精彩を欠いた。
- 20 新北市第7で出馬した曾文振は板橋の地方政治家族出身で台北県議員を4期務め息子が新北市議員に当選している。新北市第12で出馬した羅福助はかつて灰色の特定組織を率いた人物で今も一定の影響があり、息子は新北市第11選挙区の現職立法委員である。彰化県第1の林益邦は同選挙区で再選を目指しながら急逝した母親陳秀卿の後援会組織を受け継いで出馬した。彼ら3名は自分の当選は無理であるが、ある程度の組織票を擁しているため、同日選挙となり国民党に一致投票の求心力が働かなければ国民党公認候補が落選する可能性が高かった。
- 21 台湾国民会議の前身は紅党なので泛藍陣営と見なす。健保免費連線は社会福祉を重視する蔡英文および民進党の政見とは対立するので泛藍陣営と見なす。残る2つの党派の属性は不明であるが、中華民国台湾基本法連線は中華民国を党名に使用し、台湾主義党は愛国を標榜しているため泛藍陣営と見なす。これらの党派の得票率は極端に低く誤差の範囲内である。
- 22 この事例は、2012年選挙直後に広がった「投票率が下がったから蔡英文の得票率が伸びなかった」という俗説の反証である。投票率の低下と蔡英文の得票率との関係については、小笠原欣幸「投票結果の分析」、小笠原・佐藤編、前掲書、21-25頁を参照。
- 23 『朝日新聞』2012年1月16日。

付表 A 2008年73選挙区における立法委員候補得票率と総統候補得票率

縣市	選挙区	立法委員選挙			総統選挙		両者の差		立法委員候補者			
		民進党	国民党	無党籍 その他	謝長廷	馬英九	民進党候 補-謝長 廷	国民党候 補-馬英 九	民進党	国民党	無党籍	その他
台北市	第01選区	38.79%	59.82%	1.39%	40.61%	59.39%	-1.82%	0.43%	高建智	丁守中		他2名
	第02選区	45.79%	52.40%	1.81%	47.96%	52.04%	-2.17%	0.36%	王世堅	周守訓	周奕成	-
	第03選区	38.44%	60.26%	1.30%	37.61%	62.39%	0.83%	-2.13%	郭正亮	蔣孝嚴		他3名
	第04選区	35.45%	62.25%	2.30%	35.23%	64.77%	0.22%	-2.52%	徐國勇	蔡正元		他4名
	第05選区	40.95%	58.24%	0.81%	39.08%	60.92%	1.87%	-2.68%	段宜康	林郁方		他4名
	第06選区	32.46%	66.80%	0.74%	31.41%	68.59%	1.05%	-1.79%	羅文嘉	李慶安		他6名
	第07選区	31.85%	65.79%	2.36%	34.55%	65.45%	-2.70%	0.35%	田欣	費鴻泰		他5名
	第08選区	26.36%	71.82%	1.83%	28.54%	71.46%	-2.18%	0.35%	周柏雅	賴士葆		他5名
新北市	第01選区	39.83%	58.38%	1.78%	38.30%	61.70%	1.53%	-3.31%	李顯榮	吳育昇		他4名
	第02選区	43.17%	39.93%	16.90%	46.91%	53.09%	-3.74%	-13.17%	林淑芬	柯淑敏	林志嘉	他1名
	第03選区	49.51%	48.25%	2.24%	46.62%	53.38%	2.89%	-5.13%	余天	朱俊曉		他3名
	第04選区	47.13%	51.73%	1.13%	43.42%	56.58%	3.71%	-4.85%	吳秉叡	李鴻鈞		他2名
	第05選区	46.83%	52.32%	0.84%	42.72%	57.28%	4.11%	-4.96%	廖本煙	黃志雄		他3名
	第06選区	42.66%	56.94%	0.40%	42.95%	57.05%	-0.29%	-0.11%	王淑慧	林鴻池		他1名
	第07選区	41.61%	55.83%	2.56%	41.47%	58.53%	0.14%	-2.71%	莊碩漢	吳清池		他2名
	第08選区	39.66%	59.55%	0.79%	33.36%	66.64%	6.30%	-7.09%	趙永清	張慶忠		他1名
	第09選区	-	69.61%	30.39%	27.64%	72.36%	#VALUE!	-2.75%	none	林德福	周倪安	他2名
	第10選区	39.37%	60.11%	0.52%	39.85%	60.15%	-0.48%	-0.04%	李文忠	盧嘉辰		他1名
	第11選区	28.76%	69.70%	1.54%	29.55%	70.45%	-0.78%	-0.76%	陳永福	羅明才		他3名
	第12選区	38.25%	51.96%	9.79%	37.49%	62.51%	0.76%	-10.55%	陳朝龍	李慶華	廖學廣	他1名
基隆市	単一選区	28.58%	67.79%	3.63%	32.27%	67.73%	-3.68%	0.06%	游祥耀	謝國樑		他2名

桃園県	第01選区	36.80%	61.77%	1.44%	38.29%	61.71%	-1.49%	0.06%	李鎮楠	陳根德		他 2 名
	第02選区	44.91%	54.57%	0.52%	39.92%	60.08%	4.99%	-5.51%	郭榮宗	廖正井		他 1 名
	第03選区	36.32%	63.22%	0.46%	32.19%	67.81%	4.14%	-4.59%	彭添富	吳志揚		他 1 名
	第04選区	37.07%	62.43%	0.50%	37.00%	63.00%	0.07%	-0.57%	黃宗源	楊麗環		他 1 名
	第05選区	30.95%	63.77%	5.28%	31.18%	68.82%	-0.23%	-5.05%	李月琴	朱鳳芝	劉俊儀	他 1 名
	第06選区	32.40%	65.03%	2.57%	33.46%	66.54%	-1.06%	-1.51%	邱創良	孫大千	姚吉鴻	-
新竹県	単一選区	-	66.52%	33.48%	25.98%	74.02%	#VALUE!	-7.49%	none	邱鏡淳	徐欣榮	他 1 名
新竹市	単一選区	38.12%	60.62%	1.26%	35.30%	64.70%	2.82%	-4.08%	鄭宏輝	呂學樟		他 1 名
苗栗県	第01選区	41.98%	58.02%	0.00%	35.43%	64.57%	6.56%	-6.56%	杜文卿	李乙廷		-
	第02選区	14.90%	83.69%	1.41%	23.38%	76.62%	-8.47%	7.07%	詹運喜	国民党 2 名		他 3 名
台中市	第01選区	46.40%	53.60%	0.00%	41.25%	58.75%	5.15%	-5.15%	蔡其昌	劉銓忠		-
	第02選区	29.55%	-	70.45%	40.34%	59.66%	-10.79%	#VALUE!	劉瑞龍	none	顏清標	他 1 名
	第03選区	42.31%	57.69%	0.00%	41.86%	58.14%	0.45%	-0.45%	郭俊銘	楊瓊璿		-
	第04選区	38.71%	61.29%	0.00%	36.77%	63.23%	1.94%	-1.94%	蔡明憲	蔡錦隆		-
	第05選区	36.07%	57.08%	6.85%	37.06%	62.94%	-0.99%	-5.86%	謝明源	盧秀燕	沈智慧	他 1 名
	第06選区	43.21%	54.91%	1.88%	41.18%	58.82%	2.03%	-3.91%	何敬豪	黃義交		他 3 名
	第07選区	45.04%	54.96%	0.00%	40.94%	59.06%	4.10%	-4.10%	簡肇棟	江連福		-
	第08選区	-	64.00%	36.00%	41.61%	58.39%	#VALUE!	5.61%	none	徐中雄	高基讚	
南投県	第01選区	32.88%	67.12%	0.00%	36.03%	63.97%	-3.15%	3.15%	林耘生	吳敦義		-
	第02選区	41.26%	57.93%	0.81%	39.76%	60.24%	1.49%	-2.31%	湯火聖	林明濤		他 1 名
彰化県	第01選区	21.08%	44.97%	33.96%	43.33%	56.67%	-22.25%	-11.70%	柯金德	陳秀脚	陳進丁	-
	第02選区	36.85%	60.03%	3.12%	40.33%	59.67%	-3.48%	0.36%	邱創進	林滄敏	林招彪	-
	第03選区	30.84%	45.33%	23.82%	43.78%	56.22%	-12.94%	-10.88%	林重謨	鄭汝芬	楊宗哲	-
	第04選区	37.09%	41.26%	21.65%	42.11%	57.89%	-5.02%	-16.63%	江昭儀	蕭景田	陳朝容	他 1 名
雲林県	第01選区	42.18%	56.24%	1.58%	52.03%	47.97%	-9.85%	8.27%	陳憲中	張嘉郡		他 2 名
	第02選区	38.29%	49.11%	12.59%	51.08%	48.92%	-12.78%	0.19%	翁建國	張碩文	尹伶瑛	他 3 名
嘉義県	第01選区	42.53%	57.47%	0.00%	55.25%	44.75%	-12.72%	12.72%	蔡啓芳	翁重鈞		-
	第02選区	57.05%	42.12%	0.82%	53.71%	46.29%	3.34%	-4.17%	張花冠	涂文生		他 1 名
嘉義市	単一選区	40.08%	46.70%	13.22%	47.61%	52.39%	-7.53%	-5.69%	莊和子	江義雄	凌子楚	他 1 名
台南市	第01選区	54.57%	44.74%	0.68%	59.24%	40.76%	-4.66%	3.98%	黃宜津	洪玉欽		他 1 名
	第02選区	59.17%	-	40.83%	58.10%	41.90%	1.06%	#VALUE!	黃偉哲	none	李和順	-
	第03選区	50.27%	49.73%	0.00%	51.67%	48.33%	-1.39%	1.39%	陳亭妃	王昱婷		-
	第04選区	51.64%	48.36%	0.00%	46.89%	53.11%	4.76%	-4.76%	賴清德	高思博		-
	第05選区	52.66%	47.34%	0.00%	51.51%	48.49%	1.16%	-1.16%	李俊毅	吳健保		-
高雄市	第01選区	45.68%	53.56%	0.76%	52.36%	47.64%	-6.68%	5.92%	顏文章	鍾紹和		他 1 名
	第02選区	42.61%	55.27%	2.12%	52.58%	47.42%	-9.97%	7.85%	余政憲	林益世		他 1 名
	第03選区	41.17%	58.30%	0.53%	42.77%	57.23%	-1.60%	1.07%	姚文智	黃昭順		他 1 名
	第04選区	45.14%	43.00%	11.86%	54.48%	45.52%	-9.34%	-2.51%	陳啓昱	吳光訓	徐慶雄	他 3 名
	第05選区	50.54%	48.85%	0.61%	51.18%	48.82%	-0.64%	0.03%	管碧玲	羅世雄		他 3 名
	第06選区	42.71%	49.14%	8.15%	49.03%	50.97%	-6.32%	-1.83%	李昆澤	侯彩鳳	林進興	他 3 名
	第07選区	46.61%	51.33%	2.06%	47.88%	52.12%	-1.26%	-0.79%	黃昭輝	李復興		他 3 名
	第08選区	48.46%	50.23%	1.32%	46.92%	53.08%	1.54%	-2.86%	林岱輝	江玲君		他 4 名
	第09選区	51.98%	46.02%	2.00%	52.13%	47.87%	-0.15%	-1.85%	郭玫成	林國政		他 4 名
屏東県	第01選区	46.91%	-	53.09%	52.63%	47.37%	-5.73%	#VALUE!	蘇震清	none	蔡豪	他 4 名
	第02選区	43.17%	56.83%	0.00%	46.89%	53.11%	-3.72%	3.72%	李世斌	王進士		-
	第03選区	51.31%	43.00%	5.70%	51.02%	48.98%	0.29%	-5.99%	潘孟安	蘇清泉	周碧雲	-
宜蘭県	単一選区	45.87%	53.13%	1.00%	48.58%	51.42%	-2.71%	1.71%	陳金德	林建榮		他 1 名
花蓮県	単一選区	28.88%	66.40%	4.72%	22.52%	77.48%	6.36%	-11.08%	盧博基	傅崑萇		他 4 名
台東県	単一選区	-	61.09%	38.91%	26.68%	73.32%	#VALUE!	-12.23%	none	黃健庭		他 1 名
澎湖県	単一選区	39.77%	-	60.23%	42.07%	57.93%	-2.30%	#VALUE!	陳光復	none	林炳坤	他 2 名
金門県	単一選区	1.62%	37.04%	61.34%	4.87%	95.13%	-3.25%	-58.09%	唐惠霽	吳成典	陳福海	他 3 名
連江県	単一選区	3.24%	49.73%	47.04%	4.84%	95.16%	-1.60%	-45.44%	曹成佛	曹爾忠	林惠官	-

(出所) 中央選挙委員会資料を参照し筆者が作成した。

(注) 白抜きは当選者。

付表 B 2012 年 73 選挙区における立法委員候補得票率と総統候補得票率

県市	選挙区	立法委員選挙				総統選挙			両者の差		立法委員候補者				
		民進党	国民党	親民党	無党籍 その他	蔡英文	馬英九	宋楚瑜	民進党候補 -蔡英文	国民党候補 -馬英九	民進党	国民党	親民党	無党籍	その他
台北市	第01選区	40.56%	55.65%		2.34%	43.16%	54.45%	2.39%	-2.60%	1.20%	楊烈	丁守中	-	-	他3名
	第02選区	50.05%	48.48%		0.69%	50.22%	47.34%	2.43%	-0.17%	1.14%	姚文智	周守訓	-	-	他3名
	第03選区	42.31%	56.07%		1.62%	39.74%	57.60%	2.66%	2.57%	-1.53%	簡余晏	羅淑蕾	-	-	他1名
	第04選区	33.85%	48.23%	17.16%	0.76%	37.76%	59.59%	2.65%	-3.91%	-11.36%	李建昌	蔡正元	黃珊珊	-	他1名
	第05選区	42.43%	55.25%		0.80%	41.91%	55.44%	2.65%	0.52%	-0.19%	顏聖冠	林郁方	-	-	他5名
	第06選区	29.94%	60.03%	6.62%	0.20%	34.11%	63.30%	2.59%	-4.17%	-3.27%	趙士強	蔣乃辛	陳振盛	-	他6名
	第07選区	-	62.97%		24.00%	37.38%	60.01%	2.61%	#VALUE!	2.96%	none	費鴻泰	-	潘翰聲	他3名
	第08選区	29.01%	63.43%	5.08%	0.49%	31.34%	65.98%	2.68%	-2.33%	-2.55%	阮昭雄	賴士葆	李敖	-	他2名
新北市	第01選区	42.44%	50.78%	4.41%	2.37%	42.55%	54.54%	2.91%	-0.11%	-3.76%	何博文	吳育昇	余宗珮	-	他1名
	第02選区	58.73%	39.51%		0.67%	51.44%	45.93%	2.63%	7.29%	-6.42%	林淑芬	錢薇娟	-	-	他3名
	第03選区	49.26%	48.74%		0.55%	51.17%	46.02%	2.81%	-1.91%	2.72%	高志鵬	李乾龍	-	-	他2名
	第04選区	46.60%	51.08%		1.40%	48.81%	48.50%	2.69%	-2.21%	2.58%	林濁水	李鴻鈞	-	-	他2名
	第05選区	45.69%	52.78%		0.32%	47.43%	49.70%	2.87%	-1.74%	3.08%	廖本煙	黃志雄	-	-	他2名
	第06選区	45.85%	53.39%		0.76%	47.09%	50.27%	2.65%	-1.24%	3.12%	周雅淑	林鴻池	-	-	他1名
	第07選区	42.82%	44.31%		12.87%	45.89%	51.32%	2.79%	-3.07%	-7.01%	羅致政	江惠貞	-	曾文振	-
	第08選区	39.78%	48.22%		10.97%	37.47%	59.64%	2.89%	2.31%	-11.42%	江永昌	張慶忠	-	邱瓊琳	他1名
	第09選区	27.56%	48.84%		23.30%	31.34%	65.68%	2.98%	-3.78%	-16.84%	許又銘	林德福	-	雷倩	他1名
	第10選区	43.39%	47.67%		4.58%	44.78%	52.44%	2.79%	-1.39%	-4.77%	莊碩漢	盧嘉辰	-	-	他3名
	第11選区	33.43%	66.57%			32.86%	64.25%	2.89%	0.57%	2.32%	高建智	羅明才	-	-	-
	第12選区	35.91%	42.08%		21.11%	42.20%	54.95%	2.85%	-6.29%	-12.87%	沈發惠	李慶華	-	羅福助	他1名
基隆市	単一選区	40.17%	52.39%		5.86%	36.77%	59.29%	3.94%	3.40%	-6.90%	林右昌	謝國樑		張耿輝	他2名
桃園県	第01選区	44.65%	55.35%			42.72%	54.39%	2.89%	1.93%	0.96%	鄭文燦	陳根德	-	-	-
	第02選区	49.79%	50.21%			44.61%	52.50%	2.89%	5.18%	-2.29%	郭榮宗	廖正井	-	-	-
	第03選区	39.92%	53.85%	5.41%	0.81%	36.42%	60.65%	2.93%	3.50%	-6.80%	黃仁杼	陳學聖	劉文雄	-	他1名
	第04選区	40.65%	58.20%		0.46%	41.07%	56.01%	2.91%	-0.42%	2.19%	黃適卓	楊麗環	-	-	他2名
	第05選区	35.13%	45.30%		9.03%	36.11%	60.87%	3.02%	-0.98%	-15.57%	彭添富	呂玉玲	-	劉邦鉉	他4名
	第06選区	-	60.35%		31.28%	37.85%	59.10%	3.05%	#VALUE!	1.25%	none	孫大千	-	胡鎮埔	他1名
新竹県	単一選区	37.05%	61.70%		0.71%	30.93%	65.76%	3.31%	6.12%	-4.06%	彭紹瑾	徐欣瑩	-	傅家賢	他1名
新竹市	単一選区	41.85%	53.27%		3.23%	39.49%	57.43%	3.08%	2.36%	-4.16%	張學舜	呂學樟	-	-	他4名
苗栗県	第01選区	38.50%	56.82%		1.44%	39.60%	57.58%	2.82%	-1.10%	-0.76%	杜文卿	陳超明	-	-	他2名
	第02選区	28.35%	71.65%			27.59%	69.31%	3.10%	0.76%	2.34%	楊長鎮	徐耀昌	-	-	-
台中市	第01選区	54.54%	43.70%		1.76%	46.69%	50.61%	2.70%	7.85%	-6.91%	蔡其昌	陳添旺	-	-	他1名
	第02選区	40.20%	-		59.80%	45.31%	51.48%	3.21%	-5.11%	#VALUE!	李順涼	none	-	顏清標	-
	第03選区	37.39%	57.53%		5.09%	47.17%	49.70%	3.13%	-9.78%	7.83%	童瑞陽	楊瓊瑤	-	-	他1名
	第04選区	46.34%	51.11%		0.55%	40.71%	56.01%	3.28%	5.63%	-4.90%	張廖萬堅	蔡錦隆	-	-	他2名
	第05選区	40.92%	57.87%		1.22%	41.03%	55.65%	3.32%	-0.11%	2.22%	謝明源	盧秀燕	-	-	他1名
	第06選区	51.78%	45.49%		0.27%	45.24%	51.65%	3.11%	6.54%	-6.16%	林佳龍	黃義交	-	-	他5名
	第07選区	50.30%	46.00%	3.47%	0.23%	46.02%	50.66%	3.33%	4.28%	-4.66%	何欣純	鄭麗文	段緯宇	-	他1名
	第08選区	39.48%	44.77%	9.58%	5.67%	47.10%	49.86%	3.04%	-7.62%	-5.09%	郭俊銘	江啓臣	陳清龍	車淑娟	他1名
南投県	第01選区	38.55%	60.27%		1.18%	40.45%	56.66%	2.89%	-1.90%	3.61%	張國鑫	馬文君	-	-	他1名
	第02選区	45.68%	54.32%			44.12%	52.77%	3.11%	1.56%	1.55%	賴燕雪	林明濤	-	-	-

彰化縣	第01選区	34.99%	35.23%		28.26%	47.54%	49.35%	3.11%	-12.55%	-14.12%	陳進丁	王惠美	-	林益邦	他1名
	第02選区	44.53%	55.47%			44.06%	52.90%	3.05%	0.47%	2.57%	黃秀芳	林滄敏	-	-	-
	第03選区	44.10%	55.90%			48.00%	49.40%	2.60%	-3.90%	6.50%	江昭儀	鄭汝芬	-	-	-
	第04選区	50.24%	49.76%			46.27%	50.76%	2.96%	3.97%	-1.00%	魏明谷	蕭景田	-	-	-
雲林縣	第01選区	49.56%	50.44%			56.20%	41.31%	2.50%	-6.64%	9.13%	李進勇	張嘉郡	-	-	-
	第02選区	60.98%	37.10%		1.92%	55.46%	42.00%	2.54%	5.52%	-4.90%	劉建國	許舒博	-	-	他1名
嘉義縣	第01選区	49.69%	50.31%			58.76%	38.85%	2.40%	-9.07%	11.46%	蔡易餘	翁重鈞	-	-	-
	第02選区	55.20%	44.80%			58.42%	39.23%	2.36%	-3.22%	5.57%	陳明文	陳以真	-	-	-
嘉義市	單一選区	48.82%	48.53%		2.65%	51.04%	46.27%	2.69%	-2.22%	2.26%	李俊偉	江義雄	-	-	他1名
台南市	第01選区	63.09%	24.28%	12.64%		63.62%	34.05%	2.33%	-0.53%	-9.77%	葉宜津	歐崇敬	李宗智	-	-
	第02選区	68.08%	29.61%		1.16%	62.88%	34.84%	2.28%	5.20%	-5.23%	黃偉哲	周賜海	-	-	他2名
	第03選区	61.67%	37.23%		1.10%	56.19%	41.28%	2.53%	5.48%	-4.05%	陳亭妃	謝龍介	-	-	他1名
	第04選区	53.03%	46.97%			51.02%	46.40%	2.58%	2.01%	0.57%	許添財	蘇俊賓	-	-	-
	第05選区	52.23%	46.25%		1.52%	55.91%	41.46%	2.62%	-3.68%	4.79%	陳唐山	李全教	-	-	他1名
高雄市	第01選区	54.32%	45.69%			56.77%	40.75%	2.48%	-2.45%	4.94%	邱議瑩	鍾紹和	-	-	-
	第02選区	50.42%	48.38%		1.20%	56.24%	41.07%	2.70%	-5.82%	7.31%	邱志偉	林益世	-	-	他1名
	第03選区	46.10%	48.72%	3.52%	1.66%	46.55%	51.05%	2.40%	-0.45%	-2.33%	林瑩蓉	黃昭順	黎建南	-	他1名
	第04選区	64.82%	33.96%		1.22%	58.60%	39.02%	2.38%	6.22%	-5.06%	林岱樺	邱于軒	-	-	他1名
	第05選区	55.75%	42.94%		0.56%	54.25%	43.54%	2.21%	1.50%	-0.60%	管碧玲	羅世雄	-	-	他2名
	第06選区	52.80%	47.20%			52.44%	45.27%	2.29%	0.36%	1.93%	李昆澤	侯彩鳳	-	-	-
	第07選区	53.37%	45.25%		1.01%	50.69%	46.96%	2.35%	2.68%	-1.71%	趙天麟	邱毅	-	-	他2名
	第08選区	51.97%	44.94%		1.53%	50.68%	46.82%	2.50%	1.29%	-1.88%	許智傑	江玲君	-	-	他3名
	第09選区	32.25%	38.43%		26.64%	56.14%	41.72%	2.14%	-23.89%	-3.29%	郭政成	林國政	-	陳致中	他2名
屏東縣	第01選区	58.21%	33.96%		6.43%	57.24%	40.80%	1.96%	0.97%	-6.84%	蘇震清	羅志明	-	-	他2名
	第02選区	48.50%	51.50%			51.07%	46.84%	2.09%	-2.57%	4.66%	李世斌	王進士	-	-	-
	第03選区	66.65%	32.24%		1.11%	56.90%	41.34%	1.76%	9.75%	-9.10%	潘孟安	龔瑞維	-	-	他1名
宜蘭縣	單一選区	51.69%	48.31%			52.53%	44.89%	2.59%	-0.84%	3.42%	陳歐珀	林建榮	-	-	-
花蓮縣	單一選区	25.89%	44.71%		27.88%	25.94%	70.30%	3.76%	-0.05%	-25.59%	賴坤成	王廷升	-	張智超	他1名
台東縣	單一選区	41.60%	29.61%		24.97%	30.50%	66.47%	3.02%	11.10%	-36.86%	劉權豪	饒慶鈴	-	吳俊立	他2名
澎湖縣	單一選区	53.44%	-		46.56%	45.65%	49.76%	4.59%	7.79%	#VALUE!	楊曜	none	-	林炳坤	-
金門縣	單一選区	-	32.96%	32.15%	28.30%	8.22%	89.24%	2.55%	#VALUE!	-56.28%	none	楊應雄	陳福海	吳成典	他2名
連江縣	單一選区	-	46.69%		49.99%	8.03%	86.61%	5.36%	#VALUE!	-39.92%	none	曹爾忠	-	陳雪生	陳財能

(出所) 付表Aと同じ。

(注) 白抜きは当選者。

付表C 2012年73選挙区における民進党総統候補と立法委員候補の得票率の伸び幅
(2008年選挙との比較)

縣市	選挙区	蔡英文の 伸び幅	民進党候補 の伸び幅	縣市	選挙区	蔡英文の 伸び幅	民進党候補 の伸び幅
台北市	第01選区	2.54%	1.77%	南投県	第01選区	4.42%	5.67%
	第02選区	2.27%	4.26%		第02選区	4.36%	4.42%
	第03選区	2.12%	3.87%	彰化県	第01選区	4.21%	13.91%
	第04選区	2.54%	-1.60%		第02選区	3.72%	7.68%
	第05選区	2.83%	1.48%		第03選区	4.22%	13.26%
	第06選区	2.70%	-2.52%		第04選区	4.17%	13.15%
	第07選区	2.83%	-	雲林県	第01選区	4.17%	7.38%
	第08選区	2.81%	2.65%		第02選区	4.38%	22.69%
新北市	第01選区	4.25%	2.61%	嘉義県	第01選区	3.50%	7.16%
	第02選区	4.54%	15.56%		第02選区	4.71%	-1.85%
	第03選区	4.55%	-0.25%	嘉義市	単一選区	3.43%	8.74%
	第04選区	5.39%	-0.53%	台南市	第01選区	4.38%	8.52%
	第05選区	4.71%	-1.14%		第02選区	4.78%	8.91%
	第06選区	4.14%	3.19%		第03選区	4.52%	11.40%
	第07選区	4.42%	1.21%		第04選区	4.13%	1.39%
	第08選区	4.11%	0.12%		第05選区	4.41%	-0.43%
	第09選区	3.70%	-		高雄市	第01選区	4.42%
	第10選区	4.92%	4.02%	第02選区		3.66%	7.81%
	第11選区	3.31%	4.67%	第03選区		3.78%	4.93%
	第12選区	4.71%	-2.34%	第04選区		4.12%	19.68%
基隆市	単一選区	4.50%	11.59%	第05選区		3.07%	5.21%
桃園県	第01選区	4.43%	7.85%	第06選区		3.41%	10.09%
	第02選区	4.69%	4.88%	第07選区	2.81%	6.76%	
	第03選区	4.23%	3.60%	第08選区	3.76%	3.51%	
	第04選区	4.07%	3.58%	第09選区	4.01%	-19.73%	
	第05選区	4.93%	4.18%	屏東県	第01選区	4.61%	11.30%
	第06選区	4.39%	-		第02選区	4.18%	5.33%
新竹県	単一選区	4.95%	-		第03選区	5.88%	15.34%
新竹市	単一選区	4.18%	3.73%	宜蘭県	単一選区	3.95%	5.82%
苗栗県	第01選区	4.17%	-3.48%	花蓮県	単一選区	3.42%	-2.99%
	第02選区	4.22%	13.45%	台東県	単一選区	3.83%	-
台中市	第01選区	5.43%	8.14%	澎湖県	単一選区	3.59%	13.67%
	第02選区	4.97%	10.65%	金門県	単一選区	3.34%	-
	第03選区	5.31%	-4.92%	連江県	単一選区	3.20%	-
	第04選区	3.94%	7.63%	AVERAGE		4.08%	5.45%
	第05選区	3.97%	4.85%	ST DEVIATION		0.77	6.46
	第06選区	4.06%	8.57%	CORRELATION		0.14	
	第07選区	5.08%	5.26%				
	第08選区	5.50%	-				

(出所) 付表Aと同じ。

付表D 2012年73選挙区における国民党総統候補と立法委員候補の得票率の伸び幅
(2008年選挙との比較)

縣市	選挙区	馬英九の 伸び幅	国民党候補 の伸び幅	縣市	選挙区	馬英九の 伸び幅	国民党候補 の伸び幅
台北市	第01選区	-4.94%	-4.17%	南投県	第01選区	-7.31%	-6.85%
	第02選区	-4.70%	-3.92%		第02選区	-7.47%	-3.61%
	第03選区	-4.79%	-4.19%	彰化県	第01選区	-7.31%	-9.74%
	第04選区	-5.18%	-14.02%		第02選区	-6.77%	-4.56%
	第05選区	-5.48%	-2.99%		第03選区	-6.82%	10.57%
	第06選区	-5.29%	-6.77%		第04選区	-7.13%	8.50%
	第07選区	-5.44%	-2.82%	雲林県	第01選区	-6.66%	-5.80%
	第08選区	-5.49%	-8.39%		第02選区	-6.92%	-12.01%
新北市	第01選区	-7.15%	-7.60%	嘉義県	第01選区	-5.90%	-7.16%
	第02選区	-7.17%	-0.42%		第02選区	-7.06%	2.68%
	第03選区	-7.36%	0.49%	嘉義市	単一選区	-6.12%	1.83%
	第04選区	-8.08%	-0.65%	台南市	第01選区	-6.71%	-20.46%
	第05選区	-7.58%	0.46%		第02選区	-7.05%	-
	第06選区	-6.78%	-3.55%		第03選区	-7.05%	-12.50%
	第07選区	-7.21%	-11.52%		第04選区	-6.71%	-1.39%
	第08選区	-7.00%	-11.33%		第05選区	-7.03%	-1.09%
	第09選区	-6.68%	-20.77%	高雄市	第01選区	-6.89%	-7.87%
	第10選区	-7.71%	-12.44%		第02選区	-6.35%	-6.89%
	第11選区	-6.20%	-3.13%		第03選区	-6.18%	-9.58%
	第12選区	-7.56%	-9.88%		第04選区	-6.50%	-9.04%
基隆市	単一選区	-8.45%	-15.40%		第05選区	-5.28%	-5.91%
桃園県	第01選区	-7.32%	-6.42%	第06選区	-5.70%	-1.94%	
	第02選区	-7.58%	-4.36%	第07選区	-5.16%	-6.08%	
	第03選区	-7.16%	-9.37%	第08選区	-6.26%	-5.29%	
	第04選区	-6.99%	-4.23%	第09選区	-6.15%	-7.59%	
	第05選区	-7.95%	-18.47%	屏東県	第01選区	-6.57%	-
	第06選区	-7.44%	-4.68%		第02選区	-6.27%	-5.33%
新竹県	単一選区	-8.25%	-4.82%		第03選区	-7.64%	-10.76%
新竹市	単一選区	-7.26%	-7.35%	宜蘭県	単一選区	-6.54%	-4.82%
苗栗県	第01選区	-7.00%	-1.20%	花蓮県	単一選区	-7.18%	-21.69%
	第02選区	-7.32%	-12.05%	台東県	単一選区	-6.85%	-31.48%
台中市	第01選区	-8.14%	-9.90%	澎湖県	単一選区	-8.17%	-
	第02選区	-8.18%	-	金門県	単一選区	-5.89%	-4.08%
	第03選区	-8.44%	-0.16%	連江県	単一選区	-8.56%	-3.04%
	第04選区	-7.22%	-10.18%	AVERAGE		-6.84%	-6.90%
	第05選区	-7.29%	0.79%	ST DEVIATION		0.95	6.78
	第06選区	-7.17%	-9.42%	CORRELATION		0.13	
	第07選区	-8.40%	-8.96%				
	第08選区	-8.54%	-19.23%				

(出所) 付表Aと同じ。